



図1 全球年平均地上気温の時間変化。赤太線は観測値を、黒太線は計算結果(初期値の異なる4実験の平均)を示す。観測、モデルとも、1881~1910年の平均気温を引いたもの。灰色の部分には初期値の異なる4実験結果のばらつきの範囲を示す。上段から、すべて(自然+人為)の気候変動要因を考慮した場合、人為起源の気候変動要因のみを考慮した場合、自然起源の気候変動要因のみを考慮した場合、一切の気候変動要因を考慮しない場合。20世紀最後の30年程度の昇温傾向は、人間活動に伴う気候変動を考慮しなければ再現できない。一方、20世紀前半(1910~1945年頃)の昇温傾向は、自然起源の気候変動を考慮しなければ再現されることが示唆される。